

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 平成 26年 12月 10日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4676700083
法人名	社会福祉法人松山やっちく会
事業所名	グループホーム松山あじさい
所在地	鹿児島県志布志市松山町泰野字松ヶ迫1111番地 (電話) 099-487-8200
自己評価作成日	平成26年11月10日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島県鹿児島市下荒田2丁目48番13号
訪問調査日	平成26年11月28日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家族会を年3回開催し、終了後に入居者やご家族と一緒に食事を交えた交流会を実施し、親睦や意見交換の場としている。家族からの意見を聞きやすくする為に、日頃から面会時には状況報告を行っている。また、年一回アンケートも無記名で実施し、ご家族からの要望をお聞きする機会としている。施設の行事として遠足を春と秋に2回、全体で出掛けたりや少人数で実施している。また、機会を見て近隣の海や山にドライブに出掛けたりして、季節感を味わっていただいている。地域との関わりが持てるように、地域の行事を見に行ったり、同校区内の小学校の運動会等を見学に出掛けたりしている。防災対策として、消防署の指導の下併設施設との合同訓練を年2回、独自に年2回実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

自然環境に恵まれた高台に立地し、母体法人の特別養護老人ホームに隣接しているグループホームである。広々とした敷地は日常の散歩にも最適で面会に来た家族と散歩をしながら大切な時間を過ごしている利用者もいる。法人は他にもディサービス、居宅介護支援センター、訪問介護事業所等を運営して地域の高齢者福祉の一端を担っている。地域との交流がなかなか難しい立地環境にあるが、ホームより校区運動会やお祭りなどの地域行事に積極的に出かけて社会とのつながりが途切れないように支援している。また、外出支援も多く、天候や利用者の体調、職員体制を見極めてその日に外出を計画して近隣の道の駅や公園、果物刈りなどに出かけている。時には、手作り弁当持参で季節の花見、霧島の牧場、志布志にイルカを見物に行くなどの遠出もして利用者に楽しんでもらっている。「食」も利用者の健康と楽しみのひとつとして食材をふんだんに使った家庭的な食事を提供しており、時には中庭での焼肉・スイカ割り、出前寿司、テラスでのお茶タイム、そば作りや餅つき、ラーメン流しなど季節を感じながら「食」を楽しんでもらえるように趣向をこらしている。災害対策も年5回程実際の夜間帯に利用者も交えて避難訓練を実施するなど緊急時に備え、法人全体でも定期的に合同訓練を行って協力体制を築いている。職員の研鑽意欲も高く今後も更なる質の向上が期待できるグループホームである。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	「ゆったりと楽しく自由に暮らせる喜びと自信を馴染みの環境の中で、安心して生活できるように支援する。過剰な支援、干渉を控える。個人に合わせ適度であること」を理念として掲げ取り組んでいる。	法人の理念とグループホーム独自の理念を掲げている。理念は玄関と職員が目につきやすい職員用トイレ、タイムカードの上に掲示している。ケース会議で振り返ることもあり、理念の共有と実践につなげている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	日常的に交流はできていないが、地域に行事やイベントには参加している。併設している特養での夏祭り等へも参加している。	地域交流が難しい立地ではあるが、ホームより地域行事や校区運動会に積極的に出かけて交流に努めている。また、地域の交通安全週間の参加や2ヶ月に1回登校時の清掃活動も行っている。地元高校の実習生の受け入れや市の支援サポートの来訪も定期的にある	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	地域との交流は少ないが、実習生の受け入れや中学校の職場体験を受け入れして、認知症への理解を促している。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に運営推進会議を開催し、施設の取り組みを報告し、また、外部評価や情報の公表について報告し、意見をお聞きしながらサービスの向上に活かせるように取り組んでいる。	年6回行政職員、家族、地域代表の参加を得て定期的に行っている。事業所の実情報告や取り組みについて意見交換がなされている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	包括支援センターや福祉事務所等との連絡もしており、必要に応じて市町村担当者から助言をもらっている。運営推進会議に参加していただいている行政の方にもアドバイスをいただいたりしている。	運営推進会議に毎回出席があり、事業所の実情や取り組みを伝えている。また、生保者受給者もあり、市福祉事務所との連携も図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	外部研修や法人内の勉強会を通じて身体拘束については全職員理解している。身体拘束はしていないが、目に見えない拘束をしていないか気をつけている。	職員は法人全体の勉強会や外部研修等に参加して拘束についての意識を高めている。また、ホーム内でもスタッフ会議やケース会議で勉強会を開くなど検討する機会を設けている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部研修や施設内研修を通じて高齢者の人権擁護や虐待防止について学んでいる。言語等による虐待についても注意を払い防止に努めて行きたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修や施設内研修を通じて権利擁護に関して学ぶ機会はあるが実情として現在活用している人はいない。必要がある場合はスムーズに対応できるようにしたい。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約は利用者及びご家族に対し十分に説明しご理解をいただいている。また、利用料金等の改定時は来園時や家族会で説明しご理解頂けるように努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議に利用者や家族の代表に参加していただき、要望や意見を聞いている。また、家族の来園時に状況報告し意見をお聞きする機会としている。また年3回の家族会やアンケートを実施している。	日常の面会時や電話連絡時、年3回行事の後の家族会時等に家族の意見要望を聞き出すように努めている。出された意見要望については職員間で話し合っ運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のスタッフ会議や朝礼等、随時職員からの意見や要望を聞いたりする機会を設けている。	毎朝夕の申し送り時や全員参加のスタッフ会議等で意見提案を話し合っている。働きながらの資格取得も法人全体で支援している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	できる範囲で柔軟な対応ができるように勤務の調整を図っている。また、事業所内のユニット異動や資格に応じた配置で職員間の向上心を促している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>法人全体での勉強会や法人外への研修へできるだけ参加できるようにしている。必要な資格への挑戦も勤務の調整を行いながら柔軟に対応している。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>管理者同士の情報交換は少しはあるが、職員が老協の行事へ参加して交流を図る機会はあるが、実際は難しい状況である。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居前の事前面談で本人が困っている事や不安に思っていることを本人・家族・入居施設関係者からお聞きして、安心して入居できるように職員間で情報を確認するように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居申し込み時や入居時にご家族が求めている事や要望をお聞きし、その中で事業所の対応について説明し、少しでもご家族が安心できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居申し込み時や入居時にご家族が求めている事や要望をお聞きし、その中で事業所の対応について説明し、少しでもご家族が安心できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	過剰な支援はせず、本人の持っている能力を活かしながら、対等の立場で支えあう関係を維持し、安心して生活できるように支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設内での行事や家族会・面会を通して家族に状況報告し、共に支えあう関係であることを認識していただき、本人と家族の絆を築いていけるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族・本人の想いを大切に、自宅への外出、外泊支援をすると共に、隣接している施設にいる友人・知人に会いに行ったり、デイサービス利用時の友人と面会できる機会を設けている。	隣接のデイサービスの利用者である馴染みの人との交流や入居前からの馴染みの理美容室の利用、一時帰宅、墓参り、他の施設への面会など家族の協力をもらいながら関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事を一緒に摂ったり行事と一緒にいたり、お互いの共通の話題があることで、利用者が孤立しないように配慮している。食事時に座る場所等も考慮して良好な関係作りに努めている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用が終了しても、地域の中での関係を維持しながら、必要に応じて相談や援助していく事をお伝えしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で、本人の思いや希望を把握するように努めている。困難な時はご家族に話しを聞き本人の思いを伺うようにしている。	日々の関わりの中で、会話や声かけなどで把握に努めている。会話が困難な利用者からは表情や動き、家族や関係者からの情報等から本人本位に検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人やご家族から、本人のこれまでの生活歴や環境・家族との関係、サービス利用のまでの経過についての情報を得るように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の心身状態を確認し、本人の生活リズムで、本人のペースに合わせた支援を行っている。本人の有する力等についても、職員間で確認して支援の統一を図っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者一人ひとりの生活に対するニーズやケアについて、職員間でその都度検討し家族の協力を得ながら、本人が望む生活が実現できるように努めている。	利用者及び家族から生活に対する意向を聞いて個々に応じた介護計画を作成している。本人の希望に沿った外出支援や友人知人との交流、家族との関係継続の支援などもプランに取り入れている。毎月ケース会議を行い、変化があれば都度見直しを行い、変化がなくても半年ごとに定期的に見直しを行って現状に即した介護計画を作成している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の中での様子や、気付きや実践の様子を個別記録台帳に記載し、職員間で情報を共有しながら、必要に応じてケアの方針を検討し見直しを行うようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	いつでも本人やご家族の希望や意向に沿った、柔軟な対応や支援ができるように心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域で行われる行事等に参加し、地域との関わりを多く持ち生活が楽しめるように支援している。地域の支援サポーターの訪問も毎月あり、地域の昔の話しや歌を歌ったりして楽しんでいる。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医は、入居時に本人やご家族の希望を重視して決定している。定期受診時は職員が同行しかかりつけ医との関係を築いて、急変時にも対応して頂けるようにしている。	本人、家族の希望するかかりつけ医となっている。定期受診には職員が同行し、家族に報告している。また、訪問看護事業所との契約により利用者の健康管理が密に行われている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している</p>	<p>日々の生活の中で気付いた事は常に看護師に報告し、状況に合った対応ができるようにしている。また、訪問看護との連携もできるようになり、定期的な健康管理や急変時の対応ができるようになっている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている</p>	<p>入院期間がどれくらいになるのか療養計画で確認し、それに沿ってご家族と話し合いを行い、病院関係者との情報交換を行いながら退院に向けての対応を行っている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>入居時の契約時に、重度化した場合や終末期の施設の方針を説明させた頂き、ご家族から同意を得ている急変時の協力医院や主治医、訪問看護等の連携や、看取りを実施している事も説明を行っている。</p>	<p>入居時に重度化及び終末期に於けるホームの対応について指針を作成して説明している。入居後は主治医の判断のもと家族と方向性を共有してホームでできる最大限の支援に取り組んでいる。これまでも本人・家族の希望に沿った看取りの経験があり、家族の協力があることを条件に主治医、看護師、家族、職員がチームとなって支援している。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>緊急時のマニュアルを作成し、法人内の勉強会等でも消防署の協力を得て、急変時の対応についてAEDの使用訓練を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災については消防署の協力を得て、特養との訓練も含めて昼間・夜間の訓練を実施している。風水害や地震等のマニュアルはあるが訓練自体は実施していない。	消防署立会のもとと自主訓練を含めて年5回火災誘導訓練を昼間夜間とも実際の時間帯に利用者も交えて行っている。隣接の特別養護老人ホームとは定期的に合同訓練も行って協力体制を築いている。スプリンクラーも設置済みで備蓄も確保されている	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日常の業務の中で言葉遣いについて話しをしたり、勉強会等でも人権やプライバシーについて学ぶ機会がある。	定期的な法人の勉強会やスタッフ会議等でも話し合う機会を設けて職員の意識付けを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の想いを自由に言えるような雰囲気作りに配慮したり、行事等への参加も本人に聞いて、自己決定できるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員側の都合で利用者の日常生活のペースを決めないように注意し、本人の意向を大切にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	調髪や髭剃りは適宜実施している。理美容は希望があれば近隣の理美容室への送迎も実施している。衣類については、気候に合わせて職員が選んでいる為、本人の希望には沿っていない。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	お手伝いができる利用者には、台を拭いたり箸を配ったりして頂いている。昼食は利用者と職員と一緒に同じものを食べている。	「食」は利用者の楽しみと捉え出前の寿司、中庭での焼肉、ソーメン流し、そば作り、餅つき、時には手作り弁当持参で遠足に出かけたりテラスでお茶を楽しむなど趣向を凝らしている。日常の食事も職員は利用者と一緒にテーブルを囲み、家庭的な雰囲気作りに努めて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分摂取量のチェックしながら、必要に応じて野菜ジュースやバナナ等のカロリーの高い食物を提供している。献立は日々の食材で作っている為、カロリーは計算されていない。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、自分でできる利用者は自分で口腔ケアをしてもらい、できない利用者は介助で実施している。必要に応じて訪問歯科による受診も実施している。夕食後は義歯を洗浄剤につけている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	尿意・便意の訴えがない利用者は定期的に声かけを行いトイレでの排泄の働きかけを行っている。車椅子の利用者や座位が不安定な利用者でも、日中はトイレでの排泄を支援している。	排泄パターンの把握と健康管理のために個々に記録を作成して日中は身体状況に問題がない限り職員の声かけと誘導でトイレでの排泄を支援している。入居後に改善された利用者も多く、自立している利用者も維持できるように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の利用者は水分量の確保を行い、水分を摂られない利用者には好みのジュース類を提供している。看護師の指示による緩下剤の使用や漢方薬の使用で排便コントロールしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴日は基本週3回、午前と午後に分けて入浴をしてもらっている。入浴の拒否がある利用者には声かけし、時間をずらしたりして入浴できるように柔軟に対応している。	基本週3回ではあるが、体調や希望に沿って柔軟に支援している。ゆず湯や菖蒲湯などで季節を感じながら入浴を楽しんでもらうこともある。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者個々の生活のリズムを尊重し、昼間でもリビングや居室で自由に休んで頂いている。夜間帯の入眠時は室温や湿度に配慮し、安眠しやすい環境づくりに努めている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬は用法・用量を確認し、誤薬がないように管理し服薬していただいている。服薬後、利用者に変化があった時は看護師に報告している。処方箋のコピーを台帳にファイルしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	重度化傾向であるが、できる方は自立支援に繋げていく為、台を拭いたり、洗濯物をたたんだり・草取り・玄関の掃除等して頂いている。地域の行事や施設内で実施される行事に参加する機会を設けて楽しんで頂けるように支援している。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	行事で遠方へ遠足に行ったり、花見に出掛けている。また、天気の良い日は気分転換にテラスでお茶をしたり、近隣の季節感を味わえる場所へドライブに出掛けたりしている。	日常的にはテラスでお茶を飲んだり、敷地内や近隣への散歩、ドライブに出かけることが多い。他にも地域行事見学、地区老協ミニバレー大会応援、校区運動会、季節の花見、果物刈り、イルカ見物や霧島の牧場まで足を運ぶこともあり利用者に大変喜ばれている。	
		○お金の所持や使うことの支援	本人が希望される時は少額の現金を		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	持っておられる利用者もおられるが、基本的には事務所で管理させて頂いている。欲しい物や必要なものがある時は、買い物に同行されたり、職員が買って来たりしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族からの電話や自ら家族に電話されたり出来るように支援している。重度化しつつあり手紙を書かれる利用者はいない状況である。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングを中心に共有の空間が見える環境であり、リビングや廊下にソファを設置し、いつでもゆっくり座ってくつろいで頂けるように配慮している。	共用空間は広く、食事のダイニングとソファの置かれたくつろぎの空間に分かれ生活にメリハリがあるように配慮されている。天井も高く、テラスに直接出入りできるので開放感がある造りである。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にはソファが置いてあり、テレビを見ながらゆっくり過ごせるようにしている、廊下やベランダにも椅子を置き、一人で過ごしたり入居者同士でくつろげるスペースを作っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	持ち込みに規制はしていない。落ち着ける環境に近づけるように本人が大切にしている物を持って来て頂いている。タンス、クローゼットが備えつけとなっている為、家財等の持込はない。	寝具は個々に持ち込んでもらっており、他にもタンス、テレビ、仏壇、家族の写真、ラジカセ、お気に入りの飾り物などで個別の居室作りがなされている。冬場の乾燥対策として各居室に加湿器が備えられている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	キッチンやトイレ、玄関が見渡せるようになっており、トイレの場所が分かるように表示をしている。		

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)		1 ほぼ全ての利用者の
		○	2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)		1 毎日ある
		○	2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
		○	3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30,31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9,10,19)	○	1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
			3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての家族等が
		○	2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない